

年度当初に設定した「運営に関する計画」の取組内容の成果と課題をまとめました。

## 令和6年度 味原小学校の「運営に関する計画」

### 【学校教育目標】 「自信をもったたくましい子」

- ◎「自分の考えがはっきりと言える子」(主体的に考え、創造する)
- ◎「くじけず最後までやりぬく子」(成就感を高める)
- ◎「みんなとなかよく助け合う子」(連帯感を高める)

### 【安全・安心な教育の推進】 <目標通りに達成>

| 年度目標  | 結果と分析   |
|---|---|
| ① 大阪市小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 | 結果は83.6%だったことから、達成できた。昨年度72.0%より向上した。なお、校内児童アンケート調査を低学年でも実施(1月)したところ、92.0%だった。年間を通して、教職員全員で「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」ことを指導してきた。また、いじめ防止対策委員会を月1回以上実施、校務支援SKIPの「いいとこみつけ」機能を活用し、全児童の実態をいつでも教職員全員が把握できるようにした。学習者用端末の「スクールライフノート」を活用し、いじめアンケートを学期に1回以上実施し、いじめの調査を関係諸機関と連携しながら進めてきた。 |
| ② 大阪市小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。                     | 結果は91.1%だったことから、達成できた。なお、校内児童アンケート調査を低学年でも実施(1月)したところ、87.5%だったことから、課題がある。「学校安心ルール」を各教室に掲示し、内容の理解について発達段階に応じて指導できるようにした。集団生活に必要な学校でのやくそく(運動場の使い方・校時表・言葉遣いの話型・持ち物)を視覚的に示し、児童自ら実施できるようにした。   |

### 取組内容【いじめ・不登校・問題行動・児童虐待等への対応】について

毎月の生活指導委員会実施や、「いいとこみつけ」機能の活用(1月末現在334件の入力)、スクールライフノートを活用したいじめアンケートの実施(6月、11月、2月)をすることで児童の実態を随時、把握・共有し、全教職員で見守る体制を作った。また、生活指導面で課題のある児童に対し、校内会議(週2~3回)やケース会議(5回)を開き、児童への指導について話し合う機会を設けた。不登校が長期化しないために、対処療法的な対応や指導ではなく、チームの対応力が必要である。学級・学年・特別支援担当・養護教諭・管理職とSC・SSWなど関係諸機関と連携し、日々のアプローチを継続している。また、校内会議(週2~3回)、スクリーニング会議Ⅱ(3回)を開き、不登校傾向にある児童や保護者と学校との関係が途絶えないようにしてきた。児童会を中心に、毎朝のあいさつ運動や学期ごとのあいさつ運動(6月と11月)を実施した。自分から元気よくあいさつできるようになってきているが、場に応じたあいさつや言葉遣いについては課題がある。

### 取組内容【インクルーシブ教育の推進】【多文化共生教育の推進】について

児童理解研修会の実施(5月と2月)、集会活動(毎週木曜日)やピアスマイルタイム(1月末時点12回)を当初の計画通りに進めた。児童会メンバーで、令和6年度版「100のなかよし言葉」を完成させ、仲間を思いやる気持ちを育んでいくようにしてきた。「100のなかよし言葉」については、毎日玄関の小黒板にも表示し、全児童の意識を高められるようにした。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 <目標通りに達成>

| 年度目標  | 結果と分析  |
|---|--|
| ③ 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を30%以上にする。 | 結果は36.2%だったことから、達成できた。達成しているが、学年が上がるにつれ下がる傾向があった。なお、校内児童アンケート調査を低学年でも実施(1月)したところ、79.5%だった。昨年度から校内研究の主題を「自分の思いや考えをいきいきと表現する子どもを育てる」とし、「自分の考えをもち、交流を通して考えを広げ、深める」を研究の視点として全学年で取り組んだ。具体的には、友達の思いや考えと比べたり関連付けたりするために、自分の思いや考えを「書く」活動を取り入れた。考えを広げ、深めるために観点を明確に示し、「話す」「聞く」ことを意識させて交流活動を展開した。これらの取組が目標達成につながったと考えられる。 |



第134号

令和7年3月14日 発行  
大阪市立味原小学校内  
味原地域総括会  
はぐくみネット事務局  
(06) 6768-2288

子どもたちの活動の様子を、学校ホームページにアップしています。  
また、緊急の連絡等もメールと合わせてホームページでもお知らせいたします。下のQRコードをスマートフォンなどで読み取つていただくと、味原小学校ホームページにアクセスできます。  
登録しておいでいただきますよう、よろしくお願いします。



## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】&lt;目標通りに達成&gt;

| 年度目標  | 結果と分析  |
|---|--|
| ① 校内児童アンケート調査(1月調査)で「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 | 結果は76.4%だったことから、達成できなかった。また、全学年で達成できなかった。6月の校内児童アンケート調査結果よりは、数値の向上が見られた。2学期に、児童や保護者に1学期(6月)のアンケート結果を学年だよりなどで周知するようにした。各学年の具体的な数値を公開したり、健康週間を設定したりすることで、家庭への啓発をはじめ、意識して取り組む姿勢に繋げるようにした。しかし、各家庭の事情や生活環境の違いなどもあり、数字として結果に表れることは容易ではないため、今後も継続した取組や啓発を行う必要があると考える。 |

## 取組内容【就学教育前カリキュラム等に基づいた教育の推進】について

味原幼稚園と味原保育所と合同活動（学習・保育）を積極的に行った。味原幼稚園と共同で、味原アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの検討・作成を行った。幼稚園への訪問機会や幼稚園職員と交流する場を多数設けることで、教職員全員の幼小接続に関する意識を高めることにつながった。12月22日に中谷財団2024年度科学教育振興助成成果発表会（東京工科大学蒲田キャンパス）で、本校の取組「幼児期の学びの芽生えを自覚的な学びへ転換する環境づくり」を全国に報告し、優秀賞を受賞した。

## 取組内容「主体的・対話的で深い学び」の推進(個別支援の充実)について

個に応じた学習活動・学習課題を提供する時間の確保や、複数人指導や放課後に少人数指導を、各学年で行ってきた。さらに、全教科・領域において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をさらに一体的に充実させる必要がある。そのために、児童一人一人の特性・学習進度・学習到達度などを分析し、学習内容の確実な定着に向けて必要に応じた重点的な指導、指導方法などを工夫して、指導の個別化を図る。一人一人に応じた学習活動・学習課題を提供し、児童自らが学習を調整していく学習の個性化を図る。また、学級・学年・異学年の児童、他校の児童、地域の人、専門家など、多様な他者と協働を図り、異なる考え方を組み合わせたり、よりより学びを生み出すようにするといった授業を日々行う。

## 取組内容【体力・運動能力向上のための取組の推進】について

体力テスト「50m走」「ソフトボール投げ」「長座体前屈」において、4月に比べて10月の記録の方が良い児童の割合を全種目で90%以上にすることを目標としたが、56.0%だったため達成できなかった。授業前に「走」「投」「柔軟性を高める」準備運動を行ってきた。次年度は、児童に4月の体力テストの記録を基に、10月の記録の目標を自ら設定するようにする。練習メニューを考えたり、計画的に取り組んだりして、体力・運動能力向上に向けて自己調整しながら取り組むようにする。

## 【学びを支える教育環境の充実】&lt;目標通りに達成&gt;

| 年度目標  | 結果と分析   |
|---|---|
| ⑤ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)                             | 結果は、42.0%だったことから、達成できなかった。「まなびのポータル」の「SKYMENU」や「デジタルドリル」を積極的に活用する必要がある。具体的に、「SKYMENU」の「発表ノート」ツールを活用し、教師が児童に課題や考えを表現するテンプレートを配付したり、自分の考えを表現したノートや作品（スライド）などを児童が提出したりするようとする。児童からの提出物を学級全体で共有し、考えを広げ深めたりするといった協働的な学びを実現するようとする。   |
| ⑥ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）を満たす教職員の割合を50%以上にする。 | 結果は87.5%だったことから、達成できた。なお、昨年度の本校は41.7%だったことから、大きく改善しているといえる。昨年度に比べ、教職員全員出席の会議回数を約25%削減、会議時間も約25%削減（例：昨年度60分間→今年度45分間）できた。会議の時程を事前に伝え、時間厳守を徹底した。会議等の書類を電子化して配付したり、保護者配付の手紙をミマモルメで配信したりして、ペーパーレス化が進んだ。ミマモルメの活用が保護者に定着しつつある。毎週水曜日にノーカンク（全教職員17:30退勤）、月1回ゆとりの日（放課後に会議を入れない日）を設定したことに加え、月曜日を全学年5時間授業にしたり、2・3学期の始業式、全学期の終業式を給食開始・終了日にしたりするなど、校時表や行事予定を改変したことが目標を大いに上回ったことにつながった。 |

## 取組内容【教育コミュニティづくりの推進】【地域学校協働活動の推進】について

運動会6月11日、PTA芝生作業（除草作業5月8日、芝刈り作業9月20日）、PTA体育厚生委員「普通救命講習」6月12日、PTA図書委員「PTA図書室片付け」6月24日・7月12日、PTA成人教育委員「講座 フルーツ大学」7月22日、PTA学級委員「学級懇談会」、PTA保健給食・環境委員「給食試食会」10月10日、味原防災フェスタ10月19日、作品展11月6~9日、芝生開放デー11月9日、もちつき大会12月7日、ボッチャ大会1月25日を実施した。随時、学校ホームページやはぐくみネット「味原っ子NOW」、緑化推進（芝生化）事業広報誌「芝生ニュース」でその様子を伝えた。また、今年度のPTA活動について、PTA広報委員と教職員で、PTA広報誌「あじはら」を作成し、3月14日配付する。学校とPTA役員・実行委員で、今年度のPTA常置委員会の活動を振り返り、成果と課題を共有したうえで、活動内容を見直し、修正した（2月7日・2月21日）。

